

県看護学会学術集会参加者の満足度に影響する要因

—平成21年度～25年度の年次変化—



キーワード：看護学会学術集会、年次比較、満足度

○田中憲子^{1,3} 大町いづみ^{1,4} 横堀裕美^{1,5} 馬場郁子^{1,6} 富田陽子^{1,7} 森山栄子^{1,8}

安藤恵美^{1,9} 松尾寛子^{1,10} 森千津子^{1,11} 小川由美子² 副島都志子²

- | | | |
|--------------------|---------------------------|----------------|
| 1.長崎県看護協会学術委員会 | 5.三菱工業(株)長崎造船所病院 | 9.長崎大学病院 |
| 2.長崎県看護協会 | 6.独立行政法人地域医療機能推進機構 諫早総合病院 | |
| 3.日本赤十字社長崎原爆諫早病院 | 7.光晴会病院 | 10.長崎県精神医療センター |
| 4.長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 | 8.佐世保共済病院 | 11.大久保病院 |



I. 背景

長崎県看護協会では、県看護学会学術集会（以下、県学会）を定期的に開催している。県学会を効果的・効率的に運営するためには、参加者の満足度やニーズの把握が重要である。



II. 目的

本研究では、過去5年間に実施した県学会参加者アンケート結果を年次比較することによって、参加満足度に影響する要因を明らかにすることを目的とした。



III. 研究方法

対象：平成21年度～25年度に県学会に参加した会員で、アンケート調査へ協力同意し、回答があった内容788名分を解析対象とした(有効回答率65.0%)。

調査：年齢、参加動機、研究発表(口演)の満足度、特別講演参加の満足度

解析方法：満足度の違いによる各変数の頻度の比較をするために、口演発表および講演参加それぞれについて「満足」「不満」に区分し、 χ^2 検定を行い、年次比較した。統計解析には、統計解析ソフトSPSS Japan,Tokyo, 21.0を用いた。統計的有意水準は $p<0.05$ とした。

倫理的配慮：本研究に用いた調査票は、匿名性が保持されており、調査結果を学会企画、運営の参考にすることを明記したものであるが、過去の調査票を用いることから、研究に対する趣旨説明、倫理的配慮、連絡先についてホームページ上で公表した。本研究実施に当たっては、長崎県看護協会倫理審査委員会の承認を受けて実施した。



IV. 結果

対象者の概要は表1のとおりである。県学会参加者数、21年460名、25年345名、演題登録数21年48題、25年39題と減少していた。 χ^2 検定の結果、参加者満足度は、21年度に比べ、25年度の方が特別講演、研究発表(口演)共に有意に高かった(図1, $p<0.001$)。

全体の解析では、特別講演参加満足度では、参加動機「テーマに興味があった」人の方が、「今後研究に取り組みたい」「研究発表者」「共同研究者」「上司の薦め」で参加した人より有意に「満足」に関連していた($p=0.043$)。研究発表(口演)満足度では、20歳代、30歳代の人の方が、40歳以上の人より有意に「満足」に関連していた($p=0.005$)。しかし、24年度、25年度に限る解析では、すべての項目と満足度には、関連は認められなかった。

表1. 対象者の属性と満足度

n=788		n数	%
年齢	20歳代	207	26.3
	30歳代	176	22.3
	40歳代	197	25.0
	50歳代	194	24.6
	60歳代以上	14	1.8
	学会テーマ	148	18.8
参加動機(興味)	演題テーマ	58	7.4
	シンポジウム	22	2.8
	特別講演	97	12.3
	今後研究に取り組み予定	118	15.0
	発表者	60	7.6
	共同研究者	127	16.1
特別講演満足度	上司の薦め	129	16.4
	その他	29	3.7
	満足	376	47.7
	まあ満足	323	41.0
	やや不満	71	9.0
	不満	11	1.4
口演満足度	不明	7	0.9
	満足	197	25.0
	まあ満足	482	61.2
	やや不満	96	12.2
	不満	5	0.6
	不明	8	1.0

表2. 参加者数、演題数推移

	参加者数	演題登録数
21年度	460	48
22年度	406	39
23年度	421	38
24年度	415	39
25年度	345	39

表3. 特別講演満足度に関連する要因

		満足	不満	p 値
年齢	40歳<	338(88.3)	45(11.7)	0.423
	40歳≥	365(90.1)	40(9.9)	
参加動機	テーマ・内容に興味があり	228(93.4)	16(6.6)	0.043
	研究発表・共同研究者、上司の薦め	268(87.6)	38(12.4)	

表4. 研究発表(口演)満足度に関連する要因

		満足	不満	p 値
年齢	40歳<	344(89.8)	39(10.2)	0.005
	40歳≥	335(82.7)	70(17.3)	
参加動機	テーマ・内容に興味があり	200(82.0)	44(18.0)	0.097
	研究発表・共同研究者、上司の薦め	267(87.3)	39(12.7)	

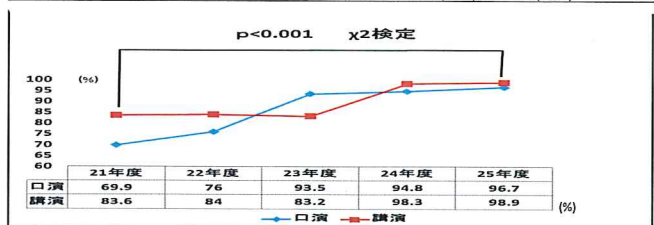


図1. 参加満足度の年次比較

V. 考察

- 24年度、25年度に限る解析では、年齢や参加動機の違いによる関連はみられなかった。
- 参加者の講演、研究発表満足度が、5年前よりも有意に高い結果を示した。
- テーマに興味があった人の方が、講演参加満足度が高かった。

先行研究から、関心、満足度に影響する要因として、参加者のニーズとマッチした研修は効果的であることが示されている¹⁾。本研究結果は、会員参加者のニーズに沿った県学会を開催できたことによる参加者の満足度が高まったことを一部説明できると考えるが、年齢や動機に関係ない参加者のニーズを満たす企画開催ができた結果によるものか、別の要因によるものなのかは明確にできていないため、さらに調査項目の追加等による検討が必要である。

